2025年2月28日(金) 16:00~17:30

松川町農村観光交流センターみらい

令和6年度第3回 松川町農業振興会議・ゆうきの里を育てよう連絡協議会

議事録

1. 開会・進行

下井課長

2. 挨拶

北沢秀公町長

3. 協議事項

(1) 地域計画の策定について

質問・意見

北沢町長 この地域計画をたてることによって、どういった目的の国の政策か、整理のためにもう1度お聞きしたい。

事務局 地域の中で考えるというところが1番だと思う。個人の農家で、この地域計画をどう使えるかという、やはり補助金の部分になってくる。地域計画に位置づけされていないと、農地を借りることも出来なくなってくる。今、いくつか補助金の要望調査等もきているが、条件に“地域計画に位置づけられていること”と謳われているので、やはり必要になってくる。しかし、地域の中で将来について話し合っただけのが一番大事であるため、その辺はしっかりやっていきたい。現在、大沢地区と部奈地区で最適土地利用総合対策事業を行っているが、地域計画を作っているからこそ地域で話し合い、次のステップとしてこうした事業となっているので、そういったところで今後活用していきたいと思っている。

(2) 松川町農業基本計画について

質問・意見

松川町議会 松井総務産業建設副委員長

8ページの松川町遊休農地面積の推移というグラフを見ると、令和3年は250ha程あった遊休農地が、令和4年には大きく減り200haをきっている。この要因は。

事務局 まず、この資料には入っていませんが、令和5年に調査した際には、202ha程になっている。何をしたからこのように減ったかという、要因ははっきりとは分からない。しかし、遊休農地対策として様々な取り組みは行ってきた。果樹研修生の受け入れによる農地を引き受けや、1人一坪農園の関係で遊休農地を借り受けて、有機

農業に取り組む方も増えているので、そういったところが影響している。かといって遊休農地がすごく減少しているかということ、そこまでは減っていない。令和4年時は、調査の方法が変わったことで減っているように見えるが、今現在200ha程の農地が遊休農地とされている。令和6年の調査も最近農業委員の皆さんに調査していただいたので、その結果が出ましたらそちらもお示ししたい。

南信州農業農村支援センター 木下係長

第3章の実施計画の果樹の部分だが、具体的な取り組みの中の環境を意識した段落について、栽培体系を構築するため新素材というのは新資材ことか。

事務局 資材のことです。

南信州農業農村支援センター 木下係長

AIを活用した防除体系というのは具体的にどういったことか。

事務局 農家の皆さんの方がこういった機械については詳しいかと思うが、これから取り組んでいく中で、AIも取り入れてやっていく必要があるのではないかということで、今回盛り込んでいる。しかし、具体的に何かあるかということ、まだ分かってはいない。

JAみなみ信州農業協同組合松川支所 坂巻課長

今の件で、防除と記載されていることで、防除に限ったAIのように見て取れる。果樹栽培の体系の中に、今後AIを活用した栽培技術の検討といった意味合いの方がいいと思う。AIを活用した栽培技術。

(3) 農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想について

質問・意見

南信州農業農村支援センター 木下係長

P.5 りんごの品目構成だが、シナノゴールドが多すぎる。その辺は見直しをしていただいた方がよい。

事務局 承知した。

松川町議会 松井総務産業建設副委員長

P.5 農業経営指標について、指標なので希望的な数字なのかもしれないが、例えば1番だと年間所得が1人450万、夫婦だと総収入900万ということか。粗収入なのか所得なのかは分からないが、450万円の所得を出すには収入は1.3倍くらいないと、所得が450万にはならない。少し現実離れたような数字のような気がするが、あくまで目標ということか。

事務局 2の表に書かれた年間所得は、総収入から経費を差し引いた額になっており、表中の経営体に書かれている数字が、県の指標で算出したものと概ね同様となっている。実際には、おそらく経費も高騰している中で、そこまでの所得にはならないと感じている方も多いと思う。現実には合わない部分もあるというのは、ご指摘の通りのところもあるが、この算出の元になっている指標自体は、コスト等も厳密に計算されたものをベースにしているところは、お伝えしたい。

事務局 年間所得なので、収入から経費を引いたものです。1人450万円だが、2人いたら900万ではなく、経営体になると600万なので、150万が追加されるような計算になっている。実際に認定農業者の皆さんが、確定申告書類を提出いただく機会では、年間所得が相当低いことがある。とても経費がかかっていることが分かるので、この金額にはなかなかならないが、計画の際には450万を目指しましょうということで立てていただいている。経費での増減はあるが、県ではこの指標をだしている、そこに合わせて今回提出している。

長野県法人協会 中平理事

農業経営基盤の強化の話か、基本計画の話か全体を通しての話になる。現実的な面も見据えるが、計画なので、ある程度冒険的、野心的なことも盛り込んでもいいと思う。具体的には、名子では住宅の中に畑がちょこちょこあるためなかなか集約が難しい。例えば、梨のジョイント栽培をこれから進めていく中で、ジョイント用の苗を育ててもらおうというのも一つの産業になるのではないかと思う。これから基本計画で農地を集約するにしても、一般的な農家は自分が作れる限界の面積しかやっていない中で、もう1ha やってくれと言われても出来ないのが現状。計画なので、既存のフジや梨を作るのではなく、空いた場所で自分も使えて、余ったら買い取ってもらえるということで、ジョイント用の苗を生産するだとか、花粉用の花を栽培するだとか、今までと違う農地の利用の仕方を考えてもいい。今までは既存の農業の発展系、以前のを踏襲した計画が書いてあるが、これから団塊の世代の人たちが抜けていく中で、どうしても厳しくなってくると思う。理想を言えば、シードルワイン特区になっているので、例えばワイン用のブドウを栽培して買い取ってもらおうとか、シードル用のりんごの栽培を手をかけずに作る、減農薬で作るなど。ふじやシナノスイートを計画に乗せることも大事だが、冒険的な面で今言ったようなリンクするような農地の活用の仕方も載せてもいいと思う。

今苗は足りておらず、むしろ作ってくださいというくらい。農地の利用の仕方として、苗を育てて必要な方に供給をするのも、新しい果樹産業になると思う。既存の書いてあるものもいいと思うが、こういったことも考えていかないと、これから人も少なくなつて厳しくなってくるので、計画なので、そういった部分も載せたほうがいいと思う。

事務局 こちらの構想と、先ほどの基本計画と今言われたようなことを盛り込んでいければと思う。

(4) 参加型認証制度について

質問・意見

長野県農業経営士協会 宮澤理事

素晴らしい取り組み、発想だと思う。これからの消費の中で、環境に優しい農業が非常に大切な要素になってきて、それをエシカル消費という。なおかつそれを分かりやすい尺度で、アピールすることが大事。見た目、味、糖度といった基準以外に

どういう環境の中で育ったかをもっとアピールする。例えば、ふるさと納税、市場の方にアピールしてもいいが、特に EC で注文される方には、そういったもので他との差別化することが一つの販売方法だと思う。星印で示すのも分かりやすい。ただ、この中に育土とある。土作りという意味だと思うが、農家的には土作りというかもしれないが、消費者的には脱炭素ではないか。農家なら土作りの意味が分かりそうだが、消費者にとってはたい肥の投入、炭の投入、緑肥の活用は、脱炭素の意味合いで訴えた方がいいのではないか。また、炭の投入は最後の五つ星くらいにした方がいいと思う四つ星しかなければそれでもいいが、緑肥より炭の投入の方がカウントは高いと思う。

事務局 何をどの星にするかについて、化学肥料と農薬は削減ですぐ見えるからいいが、育土はどういった形で星を付けていくかが難しい。炭の投入は一番取り組みやすいかと思っていたが、内部で再度検討してく。

長野県農業経営士協会 宮澤理事

山梨県の“やまなし 4 パーミル・イニシアチブ農作物等認証制度”は基本的に炭である。炭を酸化して畑に投入したものにシールを貼るとしており、果樹農家が一歩アピールするならそれが一番になると思う。育土というキャッチフレーズは分かりにくいので、脱炭素とかゼロカーボンにした方がいいと思う。

ゆうき給食とどけ隊 久保田会長

今回の認証制度が、この町でこだわっている栽培方法は評価されるべき栽培をしている農産物だというのが、PR できるいい機会かと思う。この認証制度が、農家と行政の自己満足で終わらないような形で進めていくには、消費者への理解が、大きい課題となっている。まずこの町の中だけでも消費が進むように、町の中への広報活動をしっかりやってもらうことで、町民の皆さんに環境に配慮するという意識を持ってもらえたらいいかと思う。そういう広報活動の面も、しっかりやってもらえたらと思う。

事務局 PR 等していきたいと思う。参加型認証としているので、消費者の方も交えて意見交換できた方がいいと思うので、宮澤さんが言ってくださった内容も含めながら皆さんと競技できたらと思う。

長野県法人協会 中平理事

これで 1 回やってみるといいと思う。一つの方策として、農家の大半は慣行でやっていると思うので、理想を言えば、果樹・米・野菜と最初は分けて、将来的に統合してやっていけるようにする、と。やはり裾野を広くして、多くの人に取り組んでもらうというのがいいと思う。ハードルを高くしてしまうと、限られた人しか登録しなくなってしまうので、いきなりエベレスト登るよりも、風越山から徐々に山を高くしていくという方がいいと思う。1 回やってみて、状況に応じて、例えば品目ごとに分けていければよい。野菜と果樹だと農薬使用量等目標が若干違っていたりと思うので、その辺は JA さんとか県の指導員さんとも相談して細分化するのも一つの方法だと思う。

(5) 学校給食指針について

質問・意見

長野県農業経営士協会 宮澤理事

現場の給食の先生が、取り組んでいただいたことで、今があるので、ご努力は素晴らしいと思う。松川有機農業研究会というのがあり、果樹を学校給食用に送っているが、非常にわがままなリクエストが来た。玉の大きさが決められており、なかなか厳しい。現場に合わせて要望があることは分かるし、等分するために苦労されていることも分かるが、生産現場でもそればかりを揃えるのはすごく大変なこと。学校給食に提供する機会があったら、ぜひ協議をしていく中で、玉サイズを揃えることが難しい、他のサイズでの検討を言わせていただけるとありがたいと思って東京の方に出荷している。

中央小学校 木下栄養士

規格については本当に大変。月に1回会議をしている中で、どのサイズだったらいいというのは、大まかに話をさせてもらっている。しかし、絶対このサイズでなくてはいけないということではない。小さいものでも、いただいて処理できる体制を私達で作るということも大事だと思っている。実際に現場へ見に行き、農家の皆様のご苦労も感じるものがたくさんある。小さな人参でも、私達が努力をすれば美味しい給食になることも分かってきたので、そこは話し合いの中でお互いの思いを共有しながら、今作っている。リンゴも、実は去年、有機の給食の日には有機農業研究会のリンゴを使わせていただいた。いいものを使わせていただいていると、子ども達も自然に反応してくれるようになってきているので、伝える大切さを私達も学ばせてもらっているので、歩み寄りながらやっていくのが大事かなと実感している。今後もそういうものも盛り込みながら、やっていきたいと思う。

4. 各団体からの報告

農業委員会 北沢会長代理

3月いっぱいには地域計画をとということで、それぞれの地域の担当の農業委員が進めているところ。今年の12月に、農業委員の改選がある。農業委員の仕事はフラットで、女性も男性も平等に仕事ができるものなので、ぜひ公募も含めて、女性に1人でも多く委員になっていただけるようにと思っている。

松川ファーマーズクラブ 須藤会長

秋に初めて、天竜峡の方の団体と交流をした。今年もそういった活動を続けていきたい。

人と自然にやさしい農業連絡会 米山会長

おいしいふじの品評会后、去年の収穫からシーズンがスタートということで昨年の品質、私も含めて管内非常によろしくなかった。今その修正を、剪定作業の中でやっていると。美味しいリンゴがより安定して生産できることを願いながら、今

シーズンも取り組んでいきたいと思っている。

若武者 知久副会長

我々の方では、主に会員同士の交流に重きを置いている。他には、販路の少ないような会員の販売の体験を行っている。もし若い方がいれば、どんどん入っていただければと思う。

認定農業者連絡会 松尾会長

本年度、認定農業者連絡会も視察研修やら学習会、講演会等を計画し、予定通り実施することができた。また農業委員さんとも意見交換会等いろんな意見が出て、良い話し合いができたのではないかとと思っている。今年度、認定農業者の5年の更新時期を迎える人が、会員100名の中の半分以上いる。大勢の方が再認定して、また認定農業者連絡会として、会員として、一緒に活動ができればと望んでいる。

長野県農業経営士協会 宮澤理事

長野県阿部知事は非常に脱炭素に前向きな方で、私はそういった会合で脱炭素を発言させていただいた。今だいぶムードができてきたが、山梨県のようにまだ認証制度を作るところまではいっていない、これからそういう時が来るかなと思う。保証補助金の形態で、今の補助金は非常に細部に渡っているが、総額が少ない。実現できてはいないが、草刈で、農地一反歩あたり2万や3万といったお金を、農業委員が登録している畑には全て補助するというような、そういった補助金をすべきではないかと農政運動してきた。下伊那は、農業経営士協会の会員の中で一番多くいる。

長野県法人協会 中平理事

農業法人協会は今年改選の年で、4月から県の副会長になる予定。農業法人協会といえども女性が活躍できる協会であるべきだということで、VinVie 竹村暢子さんと、飯田市の太陽農園の殿倉さんを女性の理事をあげる予定。法人協会としては、国の農業農村基本法の会議改正だったり政策提言を主にしており、最近だと松本の食肉処理場の関係で、署名活動をJAと一緒にしたり、国にそういう働きかけをやっている組織。また、農業法人ではなくても、例えば自分の息子でも青年理事ということで農業法人協会の理事会に参加をしてもらって、こういう会だとか、法人というのはこういうものかというのを勉強できる機会もある。農業法人でなくとも、ぜひ青年理事として参加を。最近だと、菅沼ライスの菅沼くんもずっと参加していた。農業法人の勉強もできるので、興味がある方は私に声をかけていただきたい。

長野県農業士協会 矢沢理事

農業士協会の活動としては、先月ちょうど阿部知事と対談する機会があり、私は有機農業と環境にやさしい農業に対する支援について、話題提供をさせていただいた。また、みどりの食料支援システム戦略について、阿部知事のお考えをお伺いし、いい話ができた。その中で、阿部知事と農政部の小林部長より、松川町はオーガニックビレッジ宣言をしており、長野県でまだ67市町村ぐらいいいかやっていないが、中でも松川町は特に有機についてとても尽力されており、これからも頑張ってください。

さいというお話をいただいた。このゆうきの里を育てようの参加型認証もあるので、この機会に積極的に参加しようかと思う。

くだもの観光協会 代田会長

くだもの観光協会の方は、ふるさと納税の返礼品で大変お世話になりありがたく思っている。くだもの観光協会の前身は、形になったのは昭和 53 年に観光果樹振興会というのが発足し始まり、その後りんご狩り組合それから今のくだもの観光協会と名前を変えながらも続いている。そろそろ発足して 50 年になるということで、宮澤さんや熊谷さんといった会長経験者を中心に実行委員会を立ち上げて、近年のうちに 50 周年の祝賀事業をやりたいと考えている。町の皆さんにもお世話になると思いますが、よろしくお願ひしたい。

JA 女性部 松下部長

若い方々に、どのように女性部の魅力を伝えて加入していただけるか、大勢の方に参加していただけるかが課題となっているが、楽しくやっていきたいと思う。

MATSUKAWA 農業女子・スカーレット 武中代表

繁忙期に入ってからなかなか活動できていませんが、スカーレットとほぼ同じメンバーの、JA のフレ水のパイン 3 というグループは、家の光の 1 月号のフレ水のコーナーで紹介してもらっている。1 月の末に、他のエリアのとの交流ということで飯田の太陽農園の殿倉さんのところと、天龍村のグループのところでお話を聞き、刺激を受けたようだった。

ゆうき給食とどけ隊 久保田会長

とどけ隊の活動の中で、様々な視察に行ってきた。兵庫県豊岡市はコウノトリを守るための方法として、農薬使わないことでコウノトリを呼び戻すことに成功した地域で、単独事業で行った福井県の越前市ファーム広瀬さんは 100 町歩を有機農法でやっている。千葉県いすみ市は、学校給食の全量を有機米で提供しており、様々な魅力もあって移り住みたい都市ランキングで上位に入ってくる都市。その後木更津市では、6 次産業化をしているクルックフィールドというところへ行った。そこは音楽プロデューサーの小林武史さんがプロデュースした、10 年足らずのところだが、“どう農地を維持していくか、守っていくか、それを次世代の子どもたちに繋げていかなきゃいけない”と強い思いで語ってくれた。1 月のフォーラムでは、健康に関する話を聞くことができ、子ども達に対する思いは大事で、それとセットでいろんな産業や環境も考えなくてはいけないということを感じた。

南信州農業農村支援センター 木下係長

支援センターはちょうど、来季の普及計画を作っているところである。重点で果樹関係でやっていた梨の関係が 3 年間の区切りをつけたが、梨プロがまだ令和 9 年まで地域での取り組みとしてあるので、支援センターも継続であと 3 年、梨を重点的に取り組むという形で、今計画を練っている。その中で新しい梨の担い手育成に取り組むというところで、松川町内では 4 名の方を重点対象として、新たな梨の担い手ということで育成を支援していくという形になっている。また、受粉樹につい

て開花の早い品種を入れながら、受粉樹を省力的に効率的に開花できるようなそういう技術確立を図っていきたいと思っており、松川にモデル園的なものを設けさせていただくようになっている。

JA みなみ信州農業協同組合松川支所 坂巻課長

先週まで集落懇談会を各地区で行い、地域の皆さんからJAに対してのたくさんのご意見いただいた。農協としてまとめ、しっかり改善していきたい。特に間沢については、果樹の生産振興についての対策といった意見をいただいている。また施設関係で言うと、選果場の受け入れ体制、直売所の関係について、もなりんは現在休業しているが、年間活動できるよう今後検討していきたい。現在、農協としては次期3ヶ年計画を作成中であり、松川についても果樹を中心とした農業振興をと考えている。果樹については県とも相談しており、梨の省力化樹形の導入、団地化を進めていきたいと考えている。野菜については、施設化を進め、きゅうり、アスパラの産地化を進めていきたい。遊休農地の活用については、花木の振興を考えており、し生田地区では、塩漬けの桜を食用としている。景観を踏まえながら、春先の一つの産業にもなっているため、そういったところを再度見直す中で、生産振興を図っていきたい。労力の活用の中で、1日農業バイトの利用が年々増えてきている。これから農繁期に入ってくる中で、摘果や秋の収穫作業等に、労働力の確保が必要になってくるので、そういったところを活用していただいたい。

農村生活マイスター 松下会長

松川町のマイスターの皆さんと活動というのは特にはないが、1月のフォーラムの昼食を、風土食を育む会として作った。あとは飯伊での活動の協力となる。

5. 閉会

下井課長